

日本共産党品川区議会議員

菊地貞二

週刊区政ニュース第372号

09年08月02日発行

貯蓄も使い果たし・・・

病院にもかかれない

「対象者のほとんどがあの忌まわしい戦争で、戦地でたたかい、国内で空襲に遭った経験をもつ。戦後は今の社会の基礎をつくってきた。その人たちに早く死ねという制度は許せない」「70歳以上になると、仕事での事故や病気が心配になります。大工仕事の仲間には75歳以上も多く、みんな怒っています。一刻も早くこの制度を廃止してほしい」・・・

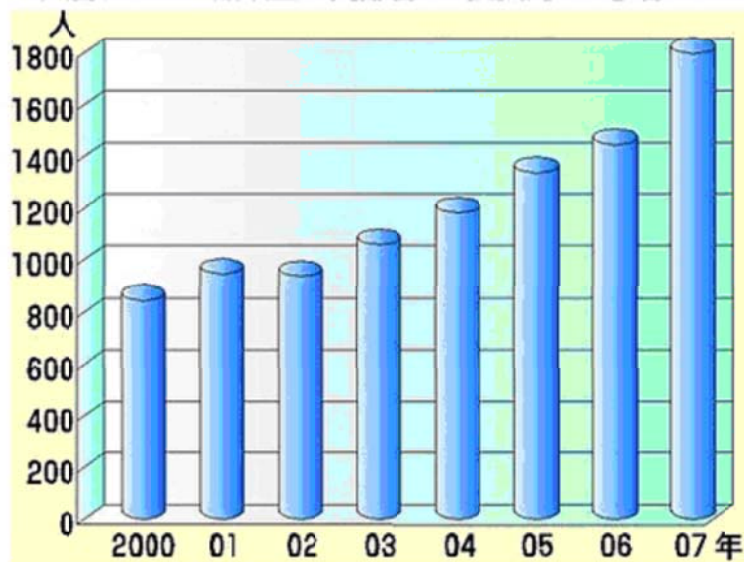
後期高齢者医療制度の実施から一年五ヶ月。怒りの声はいまだに止むことがありません。病院に行く事も出来ずに孤独死という事態も拡大しています。

全日本民主医療機関連合会（民医連）の昨年9月の調査では、後期高齢者の外来通院日数が前年

後期高齢者医療制度について政府・与党は、「見直しを検討する」と言いながら、その方向すら示せません。高齢者に負担を強いる医療から、窓口負担ゼロ、75歳以上の医療費無料化に転換するときです。

後期高齢者医療制度廃止の声をあげ、品川区で75歳以上の医療費無料化を

一人暮らしの75歳以上の高齢者の“孤独死”が急増している



出典:東京都監察医務院の統計

同期比で8.47%ものマインスでした。02年に高齢者の窓口負担が定額制から一割負担へと改善された際の受診抑制を超え、入院費用が支払えないという相談も受けました。医療制度の根本的な改善が必要です。

医療費無料化制度が

つくられた歴史

60年後半～70年代、日本共産党が躍進し、革新なかで、住民本位のあたる自治体が数多く誕生する

らしい政治の潮流が生まれました。老人医療費の無料化は、その革新自治体が切りひらいた実績のなかでもとりわけ輝くものでした。

岩手・沢内村（現・

西和賀町）で60年、同村は全国で最初に65歳以上の老人医療費無料化を開始し、61年には対象を60歳以上に広げました。

東京都に革新知事が誕生し、69年12月、70歳以上の医療無料化、その後、数年を経ずして8割をこえる地方自



治体で老人医療費の無料化を実施するようになります。

これが、自民党政府をおいづめ、ついに、

「たった4000円の負担です」 ・ ・・・いつのまにか無料化廃止へ

しかし、80年代に入ると、社会党が革新財界と自民党は、日本共産党をのぞく野党をまきこんで、福祉をどんどん後退させていきます。

82年、鈴木内閣は、

73年1月から、国の制度として70歳以上の老人医療費無料化制度が実施されたのです。

革新都政はさらに、73年7月から、国の制度の対象外となった65歳以上70歳未満の医療費も無料化し、国も同年10月から寝たきりの高齢者に限って80歳以上も無料化しました。

老人医療を有料化に逆戻りさせる老人保健法案を強行成立させます。

83年2月、同法は施行され、10年続いた老人医療無料化制度が廃止されたのです。

この老人保健法案には、自民党とともに、



公明、民社、新自連（新自由クラブと社民連の統一会派）が賛成、法案促進の立場をとりました。とりわけ、公明党は老健法案が提出される1年前に「老人医療を有料化すべし」という政策を他党に先駆けて発表し旗振り役をつとめました。

日本共産党は保険料は所得など能力に応じた負担し、必要な医療は誰もが平等に受けられる、この方向にむかって日本の医療をたてなおします。

無料法律相談会（生活相談は随時）

ところ すすらん通り事務所

日時 9月10日（木）

午後6時～8時



前日まで15742-6818までお電話を下さい。